(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第5215186号
(P5215186)
(45)発行日　平成25年6月19日(2013.6.19)　(24)登録日　平成25年3月8日(2013.3.8)

(51)Int.Cl.　　F I
A45D 44/14 (2006.01)　　A45D 44/14 A
G09B 19/24 (2006.01)　　G09B 19/24 A

請求項の数 8　(全 21 頁)

(21)出願番号　特願2008-530814 (P2008-530814)
(86)(22)出願日　平成19年3月26日 (2007.3.26)
(86)国際出願番号　PCT/JP2007/056168
(87)国際公開番号　WO2008/023472
(87)国際公開日　平成20年2月28日 (2008.2.28)
審査請求日　平成22年3月26日 (2010.3.26)
(31)優先権主張番号　特願2006-227270 (P2006-227270)
(32)優先日　平成18年8月24日 (2006.8.24)
(33)優先権主張国　日本国(JP)

(73)特許権者　598061623
有限会社美容室ゼロ
福岡県行橋市中央二丁目３番７号
(74)代理人　100095603
弁理士　榎本　一郎
(72)発明者　久保　義明
日本国福岡県行橋市中央二丁目３番７号
有限会社美容室ゼロ内

審査官　青木　良憲

最終頁に続く

(54)【発明の名称】理美容技術練習具と理美容技術練習用模型及び理美容技術練習具を用いた理美容技術練習用模型

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
頭部模型の表面に形成された凹部又は凸部からなる被固着部に着脱可能に嵌着又は挿着され回動可能に固着される固着部と、前記固着部に一端が接続された１乃至複数枚の帯状部と、を備えていることを特徴とする理美容技術練習具。
【請求項２】
頭部模型の表面に突条部で形成された被固着部を挟持して着脱可能に固着される固着部と、前記固着部に形成された連結部と、前記連結部に回動可能に嵌合される嵌合部と、前記嵌合部に一端が接続された１乃至複数枚の帯状部と、を備えていることを特徴とする理美容技術練習具。
【請求項３】
前記固着部に延設又は連結された止着部を備え、前記帯状部が前記止着部に着脱可能に止着されていることを特徴とする請求項１に記載の理美容技術練習具。
【請求項４】
前記嵌合部に延設又は連結された止着部を備え、前記帯状部が前記止着部に着脱可能に止着されていることを特徴とする請求項２に記載の理美容技術練習具。
【請求項５】
前記帯状部に添設された標示板と、前記標示板に標示された第二角度目盛と、を備えていることを特徴とする請求項１乃至４の内いずれか１に記載の理美容技術練習具。
【請求項６】

頭部模型と、前記頭部模型の表面の複数箇所に凹部，凸部，突条部のいずれか１つで形成され請求項１乃至５の内いずれか１に記載の理美容技術練習具の固着部が着脱可能に固着される被固着部と、を備えていることを特徴とする理美容技術練習用模型。

【請求項７】

前記頭部模型の表面の前記被固着部の周囲に第一角度目盛が標示されていることを特徴とする請求項６に記載の理美容技術練習用模型。

【請求項８】

（ａ）請求項１乃至５の内いずれか１に記載の理美容技術練習具と、

（ｂ）頭部模型と、前記頭部模型の表面の複数箇所に凹部，凸部，突条部のいずれか１つで形成され前記理美容技術練習具の前記固着部が着脱可能に固着される被固着部と、を有する理美容技術練習用模型と、

を備えていることを特徴とする理美容技術練習具を用いた理美容技術練習用模型。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本発明は、髪のカットやワインディングの練習を行うときに用いる理美容技術練習具と理美容技術練習用模型及び理美容技術練習具を用いた理美容技術練習用模型に関するものである。

【背景技術】

【０００２】

従来より、美容師や理容師、特に美容師や理容師の練習生や初心者が整髪技術の基本となる髪のカット技術や、パーマネント用ロッドに髪を巻き付けるワインディング技術を習得する場合は、合成樹脂材等で造形した頭部模型に天然又は合成樹脂製の毛髪を植毛した練習用ウィッグが使用されている。練習用ウィッグを使って髪のカットを練習する場合は、カットする部分の毛髪を薄く分けとり指と指の間に毛髪を挟んで引き出し、引き出した毛髪の先端を鋏でカットすることにより、目的とするヘアスタイルを作るための姿勢、スタンス、目線、毛髪を分けとる角度、分けとった毛髪を指の間に挟んで引き出す角度、鋏でカットする長さや角度を習得するのである。これらは、所望されるヘアスタイルに応じて組み合わせ、使い分けられるので、ヘアカットの基本技術としてまず習得しなければならない技術である。

しかしながら初心者は、イメージするヘアスタイルと、分けとった毛髪を引き出す角度やカット位置との関係がなかなか理解できず、また練習用ウィッグに対する姿勢やスタンスが不安定なため、分けとった毛髪を指の間に挟んで引き出す際に、姿勢やスタンスを変えるのではなく、自分では気付かないうちにカットし易いように毛髪の束を捻ったり、引き出す角度が一定にならずにばらばらになったりすることが多く、カットされた毛髪の毛先によって形成されるラインや面がギザギザになったり波を打ったような形になったりすることが多かった。練習用ウィッグでは、カットされた毛髪の毛先によって形成されるラインや面を確認しないことには、自分のカット技術が良いか否かを判断することができないため、カットの練習中に、初心者や練習生が自分自身で姿勢やスタンス等の基本技術の習得度を判定できなかった。そのため、自分に欠けている技術は何かを客観的に判定することができず、基本技術の習得に時間を要していた。

一方、初心者にこれらの技術を教える指導者は、目的とするヘアスタイルに対するカットの動作を見て、姿勢やスタンス、分けとった毛髪を指の間に挟んで引き出す角度等の基本技術について指導するのだが、これらの技術は自分が経験によって習得したものであるため、練習生や初心者に客観的に教えるのは極めて困難であった。また、指導を受けた練習生や初心者も、カットの動作の適否を客観的に判定する基準がないため、なかなか理解できず、基本技術の習得に時間を要していた。

【０００３】

また、従来の髪のカットの練習具としては、例えば（特許文献１）に開示された「頭髪のない原寸大の人頭模型本体と、方形状等に形成された基材に毛髪を植設してなり人頭模

型本体の頭髪部を部分的に覆う毛髪体とを有し、毛髪体の基材が人頭模型本体に対して着脱自在に形成され、複数の毛髪体が組をなして全体として人頭模型本体の頭髪部を全体的に覆うヘアカット練習用具」が知られている。

（特許文献２）には「幅が５～８ｃｍに形成され上端部中央に形成された孔に挿通された紐で纏められたシートからなる髪カット練習用具」が記載されている。

【特許文献１】特開２０００－３４２３３３号公報

【特許文献２】特開平１０－２２８２３２号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００４】

しかしながら上記従来の技術においては、以下のような課題を有していた。

（１）（特許文献１）に開示の技術は、従来は人頭模型本体に毛髪が固着されていたため、カット練習により毛髪を使い切ると人頭模型本体も廃棄するしかなくコストが嵩み、特に特定部位のカット練習を繰り返し行うことができないという課題を解決するためのもので、毛髪体の基材を人頭模型本体に着脱自在に形成したことで、使い切った毛髪体を適宜取り替えることにより人頭模型本体を繰り返し使用して練習することができるものである。しかしながら、方形状等に形成された基材に植設された毛髪は太い束のようになっているため、この毛髪を分けとって指の間に挟んで引き出し、それをカットするという動作自体は、従来の練習用ウィッグを使った場合と同様なので、カットされた毛髪の毛先によって形成されるラインや面を確認しないことには、自分のカット技術が良いか否かを判断することができない。そのため、初心者や練習生は、カットの練習中に自分自身で姿勢やスタンス等の基本技術の習得度を判定できないので、自分に欠けている技術は何かを客観的に判定することができず、基本技術の習得に時間を要していた。

（２）（特許文献２）に開示の技術は、天然や人工の毛を用意するためのコストを抑えることができるとともに、カット練習の後始末が容易な髪カット練習用具を提供できるものであるが、練習時にはシートを紐から引っ張り取り、片方の手の指の間に挟んで、もう片方の手にした鋏を動かしてシートに描かれた直線や曲線に沿って切断し、単に鋏の操作を練習するためだけのものである。そのため、目的とするヘアスタイルを作るために、どのような角度で髪を引き出してどこを切断するのかというカット技術の基本を習得できないという課題を有していた。また、鋏の使い方は覚えられるが、髪を引き出すための姿勢やスタンス等、最も重要な体の使い方を習得できないという課題を有していた。

【０００５】

本発明は上記従来の課題を解決するもので、指の間に挟んで引き出すときの捻れや水平方向の角度ずれの有無がわかり易いため、カットやワインディングのための正しい姿勢等を自分で判定することができ、さらに捻れや角度ずれがなくなるような正しい姿勢やスタンス、手や鋏の位置等を習得することができ、自分の癖や自分に欠けている技術は何かを客観的に判定することができるため、正しいカットやワインディングの基本技術を短時間で習得することができ、また指導者も基本技術を客観的に教えることができ効果的な指導が可能で、さらに切り終えてしまっても新しいものと交換すれば頭部模型は繰り返し使用することができ、ランニングコストを抑えることができる理美容技術練習具を提供することを目的とする。

また、本発明は、理美容技術練習具を取り付けて、カットやワインディングの基本技術を練習することができる理美容技術練習用模型及び理美容技術練習具を用いた理美容技術練習用模型を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【０００６】

上記従来の課題を解決するために本発明の理美容技術練習具と理美容技術練習用模型及び理美容技術練習具を用いた理美容技術練習用模型は、以下の構成を有している。

本発明の請求項１に記載の理美容技術練習具は、頭部模型の表面に形成された凹部又は凸部からなる被固着部に着脱可能に嵌着又は挿着され回動可能に固着される固着部と、前

記固着部に一端が接続された１乃至複数枚の帯状部と、を備えた構成を有している。
この構成により、以下のような作用が得られる。
（１）頭部模型の表面に形成された凹部又は凸部からなる被固着部に着脱可能に嵌着又は挿着され回動可能に固着される固着部と、固着部に一端が接続された１乃至複数枚の帯状部と、を備えているので、帯状部が幅広で厚さが薄いため、指の間に帯状部を挟んで引き出すときに捻れや水平方向の角度ずれがあると、帯状部に弛みが生じたりするので、捻れや角度ずれの有無を自分で判定することができ、さらに帯状部の捻れや角度ずれが生じないような正しい姿勢やスタンス、手や鋏の位置等を習得することができ、自分の癖や自分に欠けている技術は何かを客観的に判定することができるため、正しいカットやワインディングの基本技術を短時間で習得することができる。
（２）カットやワインディングの基本技術を教える指導者も、帯状部を捻らないように、また水平方向の角度ずれがなく帯状部を引き出すことができるように姿勢やスタンス、手や鋏の位置等を指導することができ、基本技術を客観的に教えることができる。また、指導を受けた練習生や初心者も、自分のカットやワインディングの動作の適否を客観的に判定することができるため容易に理解でき、カットの基本技術を短時間で習得できる。
（３）頭部模型の被固着部に着脱可能に固着される固着部を備えているので、帯状部を切り終えてしまったら、理美容技術練習具を新しいものと交換すれば頭部模型は繰り返し使用することができ、ランニングコストを抑えることができる。
（４）固着部が回動可能なので、回動角度に応じて練習生等が体の位置や姿勢を変化させることを習得でき、セクションごとに別々の切り方をする場合の基本動作を習得できる。
【０００７】
ここで、頭部模型としては、毛髪が植設されていないものが用いられる。
固着部としては、面状、帯状、点状等に形成され、頭部模型に着脱可能に形成されたものが用いられる。
固着部を頭部模型に着脱可能にする手段としては、凹部又は凸部からなる被固着部を形成した頭部模型に、嵌着又は挿着によって固着部を着脱するものを用いることができる。
【０００８】
帯状部としては、軟質の合成樹脂製、ゴム製、紙製、金属箔、毛髪、人工毛髪等で幅広の薄い帯状に形成されたものが用いられる。毛髪を分けとった束に見立てるためである。
帯状部の幅としては、指と指との間に挟んで引き出す毛髪の束と略等しい２～５ｃｍが好適に用いられる。帯状部の幅が２ｃｍより狭くなるにつれ、引き出した帯状部が捻れているか否かの判断を付け難くなる傾向がみられ、５ｃｍより広くなるにつれ指の間に挟み難くなり実際のカットやワインディングの感触と異なる傾向がみられるため、いずれも好ましくない。
帯状部の長さとしては、鋏による一カット分より長ければ特に制限はないが、５～３０ｃｍが好適に用いられる。長さが５ｃｍより短くなるにつれ、指と指の間に挟み引き出す際に捻れているか否かを判断し難くカットやワインディングの練習に適さなくなる傾向がみられるとともに切断可能な回数が少なくなり、３０ｃｍより長くなるにつれ、捻れや水平方向の角度ずれが起こり易く練習には適さない傾向がみられるため、いずれも好ましくない。
帯状部は、固着部に１乃至複数枚を接続することができる。複数枚を同じ付け根に密集させてもよいし別々の付け根に一枚ずつ分散させて接続してもよい。
帯状部には、帯状部の長さ方向に略直交して、若しくは斜交して、直線状や曲線状のカット用参考線を表示させることができる。カット用参考線に沿って切断することで鋏の使い方やカットする角度の練習をすることができる。
【０００９】
本発明の請求項２に記載の理美技術練習具は、頭部模型の表面に突条部で形成された被固着部を挟持して着脱可能に固着される固着部と、前記固着部に形成された連結部と、前記連結部に回動可能に嵌合される嵌合部と、前記嵌合部に一端が接続された１乃至複数枚の帯状部と、を備えた構成を有している。

この構成により、以下のような作用が得られる。
（１）頭部模型の表面に突条部で形成された被固着部を挟持して着脱可能に固着される固着部と、固着部に形成された連結部と、連結部に回動可能に嵌合される嵌合部と、嵌合部に一端が接続された１乃至複数枚の帯状部と、を備えているので、帯状部が幅広で厚さが薄いため、指の間に帯状部を挟んで引き出すときに捻れや水平方向の角度ずれがあると、帯状部に弛みが生じたりするので、捻れや角度ずれの有無を自分で判定することができ、さらに帯状部の捻れや角度ずれが生じないような正しい姿勢やスタンス、手や鋏の位置等を習得することができ、自分の癖や自分に欠けている技術は何かを客観的に判定することができるため、正しいカットやワインディングの基本技術を短時間で習得することができる。また、嵌合部が固着部の連結部に対して回動可能に形成されているので、帯状部を直交方向や斜交方向に配することができ、帯状部の角度に応じて自身の体の位置や姿勢を変化させることを習得でき、セクションごとに別々の切り方をする場合の基本動作を習得できる。
（２）カットやワインディングの基本技術を教える指導者も、帯状部を捻らないように、また水平方向の角度ずれがなく引き出すことができるように姿勢やスタンス、手や鋏の位置等を指導することができ、基本技術を客観的に教えることができる。また、指導を受けた練習生や初心者も、自分のカットやワインディングの動作の適否を客観的に判定することができるため容易に理解でき、カットやワインディングの基本技術を短時間で習得できる。

【００１０】

ここで、頭部模型、帯状部としては、請求項１で説明したものと同様なので、説明を省略する。

固着部としては、面状、帯状、点状等に形成され、頭部模型に着脱可能に形成されたものが用いられる。

嵌合部を連結部に着脱可能にする手段としては、凹部や凸部の連結部を形成した固着部に、嵌合部を着脱するものを用いることができる。

【００１１】

理美容技術練習具は、頭部模型に固定される固定部と、前記固定部に回動可能に形成された連結部と、前記連結部に着脱可能に形成された取付部と、前記取付部に一端が接続された１乃至複数枚の帯状部と、を備えることもできる。

この構成により、以下のような作用が得られる。
（１）取付部が固定部の連結部に対して回動可能に形成されているので、帯状部を直交方向や斜交方向に配することができ、帯状部の角度に応じて自身の体の位置や姿勢を変化させることを習得でき、セクションごとに別々の切り方をする場合の基本動作を習得できる。

本発明の請求項３に記載の発明は、請求項１に記載の理美容技術練習具であって、前記固着部に延設又は連結された止着部を備え、前記帯状部が前記止着部に着脱可能に止着された構成を有している。

この構成により、請求項１で得られる作用に加え、以下のような作用が得られる。
（１）固着部に延設又は連結された止着部に帯状部が着脱可能に止着されているので、帯状部だけを交換することができる。このため、帯状部を切り終えてしまったら、帯状部だけを新しいものと交換すれば固着部は繰り返し使用することができ、ランニングコストを抑えることができる。

本発明の請求項４に記載の発明は、請求項２に記載の理美容技術練習具であって、前記嵌合部に延設又は連結された止着部を備え、前記帯状部が前記止着部に着脱可能に止着された構成を有している。

この構成により、請求項２で得られる作用に加え、以下のような作用が得られる。
（１）嵌合部に延設又は連結された止着部に帯状部が着脱可能に止着されているので、帯状部だけを交換することができる。このため、帯状部を切り終えてしまったら、帯状部だけを新しいものと交換すれば嵌合部は繰り返し使用することができ、ランニングコストを

抑えることができる。
【００１２】
ここで、止着部としては、帯状部の一端側を挟着するクリップ、一端側が袋状に形成された帯状部の袋状の部分に挿通される棒状部材や板状部材等が用いられる。
【００１３】
【００１４】
（ａ）前記固着部に設けられ前記帯状部の一端が固定された硬質の板状部、又は、（ｂ）前記帯状部の一端側に形成され前記止着部に止着された硬質の板状部を有している場合、指の間に帯状部を挟んで引き出したときの帯状部の捻れや角度ずれの有無を、板状部を基準にして目視で容易に判断することができる。
【００１５】
ここで、板状部としては、帯状部より硬質に形成されているものであれば特に制限なく用いることができ、例えば、硬質の合成樹脂製、硬質ゴム製、金属製、紙等で形成されたものが用いられる。また、帯状部の根元に接着剤を塗布して硬化させたものでもよい。また、クリップ等で形成された止着部を板状部として用いることもできる。また、止着部で帯状部を補強することによって、板状部として用いることもできる。
板状部の長さは１ｍｍ～５ｃｍ好ましくは１ｃｍ～３ｃｍがよい。板状部の長さが１ｃｍより短くなるにつれ板状部を基準にして捻れやずれを目視判定し難くなる傾向がみられ、３ｃｍより長くなるにつれ帯状部を引き出す際に板状部も撓んで変形し帯状部の捻れや角度ずれが判定し難くなる傾向がみられる。特に、１ｍｍより短くなるか５ｃｍより長くなると、これらの傾向が著しくなるためいずれも好ましくない。
【００１６】
【００１７】
【００１８】
本発明の請求項５に記載の発明は、請求項１乃至４の内いずれか１に記載の理美容技術練習具であって、前記帯状部に添設された標示板と、前記標示板に標示された第二角度目盛と、を備えた構成を有している。
この構成により、請求項１乃至４の内いずれか１で得られる作用に加え、以下のような作用が得られる。
（１）帯状部に添設された標示板と、標示板に標示された第二角度目盛と、を備えているので、毛髪を引き出す角度を変えたり一定の角度で引き出したりすることを想定した練習を行う際に、どの程度の角度で引き出しているのかを理解することができ、引き出す角度と姿勢やスタンスとの関係を習得することができる。
【００１９】
ここで、標示板としては、帯状部の幅方向と略直交して固着部や固定部に立設されたもの、連結部や板状部に配設されたもの等で、帯状部の側方に添設されたものが用いられる。固着部や固定部、板状部に対する帯状部の角度を測ることができるようにするためである。
第二角度目盛としては、帯状部の付け根から放射状に標示された目盛が用いられる。帯状部が板状部に固定されている場合も、板状部に固定された帯状部の付け根から放射上に標示された目盛が用いられる。角度を数字で標示することができるが、単に線や点で目盛を示しただけのものでもよい。
【００２０】
本発明の請求項６に記載の理美容技術練習用模型は、頭部模型と、前記頭部模型の表面の複数箇所に凹部，凸部，突条部のいずれか１つで形成され請求項１乃至５の内いずれか１に記載の理美容技術練習具の固着部が着脱可能に固着される被固着部と、を備えた構成を有している。
この構成により、以下のような作用が得られる。
（１）頭部模型と、頭部模型の表面に形成され理美容技術練習具の固着部が固着される被固着部を備えているので、理美容技術練習具を取り付けて、カットやワインディングの基

本技術を練習することができる。

【００２１】

ここで、理美容技術練習用模型としては、頭部模型の表面に、理美容技術練習具の固着部が着脱可能に固着される被固着部が形成されたものが用いられる。また、表面に被固着部が形成された模型本体の背面に、既存の頭部模型等に被着可能に形成された被着部を備えたものを用いることもできる。また、合成樹脂製や金属製等で生え際から後頭部に亘って薄肉状に形成され被固着部を有する頭部模型を用いることもできる。

被固着部としては、凹部，凸部，突条部のいずれかによって形成され、クリップ等による挟着、嵌着、挿着によって固着部を着脱可能にしたものを用いることができる。

本発明の請求項７に記載の発明は、請求項６に記載の理美容技術練習具であって、前記頭部模型の表面の前記被固着部の周囲に第一角度目盛が標示された構成を有している。

この構成により、請求項６で得られる作用に加え、以下のような作用が得られる。

（１）頭部模型の表面の被固着部の周囲に第一角度目盛が標示されているので、被固着部に対して回動させた帯状部の角度を読み取り、帯状部の角度と自身の体の位置や姿勢との関係を習得することができる。

ここで、第一角度目盛としては、帯状部の固着部、連結部、嵌合部の回動中心から放射状に標示された目盛が用いられる。角度を数字で標示することができるが、単に線や点で目盛を示しただけのものでもよい。

本発明の請求項８に記載の理美容技術練習具を用いた理美容技術練習用模型は、（ａ）請求項１乃至５の内いずれか１に記載の理美容技術練習具と、（ｂ）頭部模型と、前記頭部模型の表面の複数箇所に凹部，凸部，突条部のいずれか１つで形成され前記理美容技術練習具の前記固着部が着脱可能に固着される被固着部と、を有する理美容技術練習用模型と、を備えた構成を有している。

（１）理美容技術練習用模型に理美容技術練習具を取り付けて、カットやワインディングの基本技術を練習することができ、指の間に帯状部を挟んで引き出すときの捻れや角度ずれの有無がわかり易いため、カットやワインディングのための正しい姿勢等を自分で判定することができ、さらに捻れや角度ずれがなくなるような正しい姿勢やスタンスを習得することができ、自分の癖や自分に欠けている技術は何かを客観的に判定することができるため、正しいカットやワインディングの基本技術を短時間で習得することができ、また指導者も基本技術を客観的に教えることができ効果的な指導が可能で、さらに切り終えてしまっても新しいものと交換すれば頭部模型は繰り返し使用することができ、ランニングコストを抑えることができる。

（２）セクションごとに頭部模型に複数の被固着部を形成することができ、理美容技術練習具を様々なセクションの被固着部に装着して、セクションごとのカットやワインディングの場合の姿勢やスタンス等を練習できる。

【発明の効果】

【００２２】

以上のように、本発明の理美容技術練習具と理美容技術練習用模型及び理美容技術練習具を用いた理美容技術練習用模型によれば、以下のような有利な効果が得られる。

請求項１に記載の発明によれば、

（１）帯状部が幅広のため、指の間に帯状部を挟んで引き出すときの捻れや水平方向の角度ずれの有無を自分で判定することができ、さらに帯状部の捻れや角度ずれが生じないような正しい姿勢やスタンス、手や鋏の位置等を習得することができ、自分の癖や自分に欠けている技術は何かを客観的に判定することができるため、正しいカットやワインディングの基本技術を短時間で習得することができる理美容技術練習具を提供できる。

（２）カットやワインディングの基本技術を教える指導者も、帯状部を捻らないように、また水平方向の角度ずれがなく帯状部を引き出すことができるように姿勢やスタンス、手や鋏の位置等を指導することができ、基本技術を客観的に教えることができ、また、指導を受けた練習生や初心者も容易に理解でき、カット等の基本技術を短時間で習得できる理美容技術練習具を提供できる。

（３）帯状部を切り終えてしまったら、理美容技術練習具を新しいものと交換すれば頭部模型は繰り返し使用することができ、ランニングコストを抑えることができる理美容技術練習具を提供できる。
（４）固着部が回動可能なので、回動角度に応じて練習生等が体の位置や姿勢を変化させることを習得でき、セクションごとに別々の切り方をする場合の基本動作を習得できる理美容技術練習具を提供できる。
【００２３】
請求項２に記載の発明によれば、
（１）帯状部が固着部に対して回動可能に形成されているので、帯状部の水平方向の角度を変えることができ、帯状部の角度に応じて自身の体の位置や姿勢を変化させることを習得でき、セクションごとに別々の切り方をする場合の基本動作を習得できる理美容技術練習具を提供できる。
【００２４】
請求項３に記載の発明によれば、請求項１の効果に加え、
（１）固着部に延設又は連結された止着部に帯状部が着脱可能に止着されているので、帯状部だけを交換することができるため、帯状部を切り終えてしまったら、帯状部だけを新しいものと交換すれば固着部は繰り返し使用することができ、ランニングコストを抑えることができる理美容技術練習具を提供できる。
【００２５】
請求項４に記載の発明によれば、請求項２の効果に加え、
（１）嵌合部に延設又は連結された止着部に帯状部が着脱可能に止着されているので、帯状部だけを交換することができるため、帯状部を切り終えてしまったら、帯状部だけを新しいものと交換すれば嵌合部は繰り返し使用することができ、ランニングコストを抑えることができる理美容技術練習具を提供できる。
【００２６】
請求項５に記載の発明によれば、請求項１乃至４の内いずれか１の効果に加え、
（１）帯状部に添設された標示板と、標示板に標示された第二角度目盛と、を備えているので、毛髪を引き出す角度を変えたり一定の角度で引き出したりすることを想定した練習を行う際に、どの程度の角度で引き出しているのかを理解することができ、引き出す角度と姿勢やスタンスとの関係を習得することができる理美容技術練習具を提供できる。
【００２７】
請求項６に記載の発明によれば、
（１）理美容技術練習具を取り付けて、カットやワインディングの基本技術を練習することができる理美容技術練習用模型を提供できる。
【００２８】
請求項７に記載の発明によれば、請求項６の効果に加え、
（１）頭部模型の表面に第一角度目盛が標示されているので、被固着部に対して回動させた帯状部の角度を読み取り、帯状部の角度と自身の体の位置や姿勢との関係を習得することができる理美容技術練習具を提供できる。
【００２９】
請求項８に記載の発明によれば、
（１）カットやワインディングの基本技術を練習することができ、指の間に帯状部を挟んで引き出すときの捻れや角度ずれの有無がわかり易いため、カットやワインディングのための正しい姿勢等を自分で判定することができ、さらに捻れや角度ずれがなくなるような正しい姿勢やスタンスを習得することができ、自分の癖や自分に欠けている技術は何かを客観的に判定することができるため、正しいカットやワインディングの基本技術を短時間で習得することができ、また指導者も基本技術を客観的に教えることができ効果的な指導が可能で、さらに切り終えてしまっても新しいものと交換すれば頭部模型は繰り返し使用することができ、ランニングコストを抑えることができる理美容技術練習具を用いた理美容技術練習用模型を提供できる。

（２）セクションごとに頭部模型に複数の被固着部を形成することができ、理美容技術練習具を様々なセクションの被固着部に装着して、セクションごとのカットやワインディングの場合の姿勢やスタンス等を練習できる理美容技術練習具を用いた理美容技術練習用模型を提供できる。

【図面の簡単な説明】

【００３０】

【図１】（ａ）参考例１における理美容技術練習具の斜視図　（ｂ）理美容技術練習具を頭部模型に固着した状態を示す斜視図

【図２】（ａ）実施の形態１における理美容技術練習具の斜視図　（ｂ）理美容技術練習具を固着した理美容技術練習用模型を示す側面図　（ｃ）第一角度目盛の標示板を示す平面図　（ｄ）変形例の理美容技術練習具の要部側面図

【図３】参考例２における理美容技術練習具の斜視図

【図４】参考例３における理美容技術練習具の斜視図

【図５】（ａ）参考例４における理美容技術練習具の斜視図　（ｂ）参考例４における理美容技術練習具の側面図

【図６】（ａ）参考例５における理美容技術練習具の斜視図　（ｂ）参考例５における理美容技術練習具の正面図

【図７】（ａ）参考例６における理美容技術練習具を頭部模型に装着した状態を示す斜視図　（ｂ）理美容技術練習具の要部断面図

【図８】（ａ）実施の形態２における理美容技術練習用模型の側面図　（ｂ）実施の形態２における理美容技術練習具の要部側面図

【図９】（ａ）参考例７における理美容技術練習用模型の側面図　（ｂ）参考例７における理美容技術練習用模型に実施の形態１における他の変形例の理美容技術練習具を固着した状態を示す要部断面図

【符号の説明】

【００３１】

１，１１，１１′，１１ａ，２１，３１，４１，５１，６１，７１　理美容技術練習具２，２２，６２　固定部

３，２３，６３，７３　連結部

４，２４，６７　第一角度目盛

５　嵌合凹部

６，１４ｂ，２７，６６　取付部

７，１５，４３　板状部

８，１４，１４ａ，２６，３３，４４，５６，６３，６５，７６　帯状部

９　カット用参考線

１２，１２ａ，３２，４２，５２，６２，７２　固着部

１２ｂ　軸部

１２ｃ　鍔部

１２ｄ　螺子部

１２ｅ　締結部材

１３，１３ａ，７５　止着部

１３ｂ，２５，６４　抜け防止部

１３ｃ　挟持部

５３　標示板

５４　切れ目部

５５　第二角度目盛

７４　嵌合部

１００，１０９　頭部模型

１０１　基準線

１０２，１１０　理美容技術練習用模型

１０３，１１１　模型本体
１０４　筒部
１０５，１１２　被固着部
１０６　標示板
１０７　嵌挿孔部
１０８　第一角度目盛
１２０　理美容技術練習用模型
１２１　模型本体
１２２　基部
１２３　支持ヘッド嵌挿孔部
１２４　被固着部
１３０　取付台
１３１　支持ヘッド

【発明を実施するための最良の形態】

【００３２】

以下、本発明を実施するための最良の形態を、図面を参照しながら説明する。

（参考例１）

図１（ａ）は本発明の参考例１における理美容技術練習具の斜視図であり、（ｂ）は理美容技術練習具を頭部模型に固着した状態を示す斜視図である。

図中、１は参考例１における理美容技術練習具、２は吸盤等の略円形の面状体で形成された固定部、３は固定部２の表面の略中央に突設された連結部、４は固定部２の表面の略半分に連結部３を中心に等間隔の放射状に標示された第一角度目盛、５は連結部３の頂部に略半球状の凹状に形成された嵌合凹部、６は合成樹脂製や金属製等で形成され連結部３の嵌合凹部５に着脱可能に嵌着された略球状の取付部、７は硬質の合成樹脂製等で形成され取付部６に延設された硬質の板状部、８は軟質の合成樹脂製、ゴム製、紙製、金属箔等で幅広の薄いシート状に形成され一端が板状部７に固定され取付部６に接続された帯状部、９は帯状部８の長さ方向に略直交して若しくは斜交して標示された直線状のカット用参考線、１００は毛髪が植設されていない頭部模型、１０１はネープからトップに亘って水平方向に所定の間隔で区画され頭部模型１００に標示された基準線である。

なお、本参考例においては、取付部６の大きさは連結部３の嵌合凹部５の大きさと略同一に形成されており、取付部６は連結部３の嵌合凹部５に固く嵌められている。そのため、板状部７を摘んで動かせば取付部６を回動させることができるが、帯状部８を挟んで引き出しても取付部６には力が伝達され難いので、取付部６を回動させることができないように形成されている。また、帯状部８の幅は２～５ｃｍに、長さは５～３０ｃｍに形成されている。また、板状部７の長さは１ｍｍ～５ｃｍに形成されている。

【００３３】

以上のように構成された本発明の参考例１における理美容技術練習具について、以下その使用方法を説明する。

理美容技術の練習を行う練習生等は、基準線１０１を参考にしながら頭部模型１００に理美容技術練習具１の固定部２を吸着、貼着等によって固定した後、板状部７を摘んで固定部２に対して垂設させるよう調整する。始めに、指と指の間で帯状部８を挟んで、取り分けた毛髪の束を水平方向に対して所定の角度に引き出す動作を練習するのであるが、このときに帯状部８が捻れたり弛んだり水平方向に対して引き出す角度がずれないように姿勢やスタンスを整える。これにより、正しいカットのための姿勢やスタンス、手や鋏の位置等を習得することができる。次に、指の間からはみ出た帯状部８の先端を、カット用参考線９に沿って鋏で切断することで、鋏の使い方を習得することができる。

また、帯状部８を板状部７に対して真っ直ぐ引き上げる場合、帯状部８を板状部７に対して斜めに引き上げる場合について、帯状部８が捻れたり弛んだりしないように姿勢やスタンスを整えることで、グラデーション、セイムレイヤー、ハイレイヤー等の各々の場合の正しいカットのための姿勢やスタンスを習得することができる。

また、板状部７を摘んで第一角度目盛４を参考にしながら取付部６を連結部３に対し水平方向に回動させた後、同様に練習することによって、回動させた帯状部８の角度に応じて、自身の体の位置や姿勢を変化させることを習得できる。

なお、帯状部８を使って、パーマネント用ロッドに巻き付ける練習をすることで、ワインディングの練習を行うこともできる。

【００３４】

以上のように、本発明の参考例１における理美容技術練習具は構成されているので、以下のような作用が得られる。

（１）連結部３に着脱可能に形成された取付部６と、板状部７を介して取付部６に一端が接続された帯状部８と、を備えているので、帯状部８が薄いシート状で幅広のため、指の間に帯状部８を挟んで引き出すときの帯状部８の捻れや水平方向に対する角度ずれの有無がわかり易いため、帯状部８の捻れやずれを自分で判定することができ、さらに帯状部８の捻れやずれがなくなるような正しい姿勢やスタンス、手や鋏の位置等を習得することができ、自分の癖や自分に欠けている技術は何かを客観的に判定することができるため、正しいカットの基本技術を短時間で習得することができる。

（２）カットの基本技術を教える指導者も、捻れやずれがないように帯状部８を引き出すための姿勢やスタンス等を指導することができ、基本技術を客観的に教えることができる。また、指導を受けた練習生や初心者も、自分のカットの動作の適否を客観的に判定することができるため容易に理解でき、カットの基本技術を短時間で習得できる。

（３）連結部３に着脱可能に固着される取付部６を備えているので、帯状部８を切り終えてしまったら、帯状部８を新しいものと交換すれば頭部模型１００や固定部２は繰り返し使用することができ、ランニングコストを抑えることができる。

（４）帯状部８にカット用参考線９が表示されているので、カット用参考線９に沿って切断することで鋏の使い方やカットする角度の練習をすることができる。

（５）取付部６が固定部２の連結部３に対して回動可能に形成されているので、基準線１０１に対して帯状部８を直交方向や斜交方向に配することができ、帯状部８の角度に応じて自身の体の位置や姿勢を変化させることを習得でき、セクションごとに別々の切り方をする場合の基本動作を習得できる。

（６）固定部２の表面に第一角度目盛４が標示されているので、回動させた帯状部８の角度を読み取り、帯状部８の角度と自身の体の位置や姿勢等との関係を習得することができる。

（７）帯状部８の一端が硬質の板状部７に固定されているので、指の間に帯状部８を挟んで引き出したときの帯状部８の捻れや角度ずれの有無を、板状部７を基準にして目視で容易に判断することができる。

（８）帯状部８の幅が２～５ｃｍに形成されているので、指と指との間に挟んで引き出し易く、また引き出した帯状部が捻れているか否かの判断が付け易い。また、帯状部８の長さが５～３０ｃｍに形成されているので、練習生等が取り扱い易く、また引き出した帯状部８が捻れているか否かを判断し易い。また、板状部７の長さが１ｍｍ～５ｃｍに形成されているので、板状部７を基準にして捻れやずれを目視判定し易い。

【００３５】

ここで、本参考例においては、帯状部８が板状部７に一枚固定された場合について説明したが、複数枚を固定する場合もある。この場合も同様の作用が得られるとともに、重ねた帯状部８に厚みができるので、毛髪の束の厚みに近い感触が得られるという作用が得られる。

また、固定部２が頭部模型１００に貼着、吸着等によって着脱可能に形成された場合について説明したが、接着等によって完全に固着してしまう場合もある。この場合も、取付部６が連結部３に着脱可能に形成されているので、同様の作用が得られる。

また、帯状部８が、軟質の合成樹脂製、ゴム製、紙製、金属箔等で幅広の薄いシート状で形成された場合について説明したが、複数本の毛髪や合成樹脂製の糸状物の一端部を板状部７に固着して、薄い束のような帯状に形成したものを用いる場合もある。この場合も

同様の作用が得られる。

【００３６】

（実施の形態１）

図２（ａ）は本発明の実施の形態１における理美容技術練習具の斜視図であり、（ｂ）は理美容技術練習具を固着した理美容技術練習用模型を示す側面図であり、（ｃ）は第一角度目盛の標示板を示す平面図であり、（ｄ）は変形例の理美容技術練習具の要部側面図である。

図２（ａ）において、１１は実施の形態１における理美容技術練習具、１２は略球面状に形成された固着部、１３は硬質の合成樹脂製や金属製等で形成され固着部１２に延設されたクリップからなる止着部、１４は軟質の合成樹脂製、ゴム製、紙製、金属箔等で幅広の薄い帯状に形成された帯状部、１５は合成樹脂製、硬質ゴム製、金属製、紙等で帯状部１４の一端側に形成され止着部１３で挟着された板状部である。

図２（ｂ），（ｃ）において、１０２は実施の形態１における頭部模型からなる理美容技術練習用模型、１０３は理美容技術練習用模型１０２の頭部模型の模型本体、１０４は模型本体１０３のフロント，トップ，サイド，ネープ等のセクションごとに形成された複数の孔部に挿着され先端側が頭部表面から突出した筒部、１０５は筒部１０４内に形成され理美容技術練習具１１の固着部１２が嵌着される嵌合凹部からなる被固着部、１０６は円盤状に形成された第一角度目盛の標示板、１０７は標示板１０６の略中心に形成された筒部１０４が嵌挿される嵌挿孔部、１０８は標示板１０６の縁部に形成された第一角度目盛である。

図２（ｄ）において、１１ａは変形例の理美容技術練習具、１３ａは合成樹脂製等で略球面状に形成された固着部１２から略Ｌ字状に延設された硬質の板状部材からなる止着部、１３ｂは止着部１３ａの固着部１２側の縁辺にローレット切りや凹凸等で形成された抜け防止部、１３ｃは止着部１３ａの基部から延設され抜け防止部１３ｂと微小間隔をあけて対向する挟持部、１４ａは軟質の合成樹脂製、ゴム製、紙製、金属箔等で幅広の薄い帯状に形成された帯状部、１４ｂは帯状部１４ａの一端側を折り返して端部を溶着、接着等で帯状部１４ａに固着して形成され止着部１３ａが嵌挿される取付部である。

【００３７】

以上のように構成された本発明の実施の形態１における理美容技術練習具１１は、クリップからなる止着部１３に帯状部１４に形成された板状部１５を挟持させて止着した後、理美容技術練習用模型１０２のカット等の練習をしたいセクションに形成された被固着部１０５に、理美容技術練習具１１の固着部１２を嵌着させることで固着させることができる。また、理美容技術練習具１１を被固着部１０５に嵌着させる際に、標示板１０６の嵌挿孔部１０７に筒部１０４を嵌挿して、模型本体１０３の表面の被固着部１０５の周囲に第一角度目盛を標示させることができる。

別のセクションの練習を行う場合には、被固着部１０５から理美容技術練習具１１を抜いた後、表示板１０６を取り外して、別のセクションに形成された被固着部１０５に標示板１０６及び理美容技術練習具１１を配置する。カットの練習によって帯状部１４が短くなってしまったら、帯状部１４を新しいものと交換することができる。

【００３８】

変形例の理美容技術練習具１１ａにおいても、帯状部１４ａに形成された取付部１４ｂに止着部１３ａを嵌挿させて止着した後、理美容技術練習用模型１０２のカット等の練習をしたいセクションに形成された被固着部１０５に、理美容技術練習具１１の固着部１２を嵌着させることで固着させることができ、標示板１０６を用いて被固着部１０５の周囲に第一角度目盛を標示させることができる。止着部１３ａには抜け防止部１３ｂが形成されており、また止着部１３ａに嵌挿された取付部１４ｂが挟持部１３ｃで挟持されるので、止着部１３ａに止着された帯状部１４ａが練習中に外れたり、取付部１４ｂが練習中に止着部１３ａの周りを回動したりするのを防止でき、板状部材からなる止着部１３ａで取付部１４ｂが補強されて板状部を形成することができる。

【００３９】

以上のように構成された実施の形態１における理美容技術練習具によれば、参考例１に記載した作用に加え、以下のような作用が得られる。
（１）帯状部１４，１４ａが止着部１３，１３ａに着脱自在に形成されているので、帯状部１４，１４ａがカットの練習で短くなってしまったら、帯状部１４，１４ａだけを新しいものと交換できるので、ランニングコストを低減させることができる。
（２）略球面状に形成された固着部１２が筒部１０４の被固着部１０５内を回動可能なので、回動角度に応じて練習生等が体の位置や姿勢を変化させることを習得でき、セクションごとに別々の切り方をする場合の基本動作を習得できる。
（３）理美容技術練習具１１ａの板状部材で形成された止着部１３ａに、帯状部１４ａの取付部１４ｂが挿通されて板状部が形成されるので、引き出した帯状部１４ａの捻れや角度ずれの有無を目視で容易に判断することができる。

【００４０】

また、以上のように構成された実施の形態１における理美容技術練習用模型によれば、以下のような作用が得られる。
（１）セクションごとに模型本体１０３に複数の被固着部１０５が形成されているので、理美容技術練習具１１，１１ａを様々なセクションの被固着部１０５に装着して、セクションごとのカットやワインディングの場合の姿勢やスタンス等を練習できる。
（２）筒部１０４に標示板１０６を装着することで被固着部１０５の周囲に第一角度目盛を標示させることができるので、帯状部１４，１４ａの角度と自身の体の位置や姿勢との関係を習得することができる。

【００４１】

ここで、本実施の形態においては、被固着部１０５が形成された模型本体１０３に、理美容技術練習具１１，１１ａの固着部１２を嵌着させる場合について説明したが、固着部１２をピン等で形成すれば、被固着部１０５が形成されていない模型本体１０３であっても、ピン等を模型本体１０３の表面に刺衝し固着させることができ、同様の作用が得られる。

また、模型本体１０３に凹部からなる被固着部１０５が形成された場合について説明したが、被固着部１０５を凸状に形成し固着部１２を凹状に形成して、着脱可能にすることもできる。この場合も同様の作用が得られる。

また、理美容技術練習具１１，１１ａの固着部１２を、参考例１で説明した理美容技術練習具１の固定部２の連結部３の嵌合凹部５に嵌着させることもでき、この場合も同様の作用が得られる。

また、理美容技術練習用模型１０２の模型本体１０３が頭部模型と一体に形成された場合について説明したが、模型本体１０３を別に合成樹脂製やゴム製等でマスク状に成形して、参考例１で説明した頭部模型１００に被着して用いるようにする場合もある。この場合は、既存の頭部模型を流用できるという作用が得られる。

【００４２】

（参考例２）

図３は本発明の参考例２における理美容技術練習具の斜視図である。

図中、２１は参考例２における理美容技術練習具、２２は略半円形の面状体で形成された固定部、２３は略Ｌ字状に形成され一端が固定部２２に回動可能に枢設された連結部、２４は固定部２２の表面に連結部２３を中心に等間隔の放射状に標示された第一角度目盛、２５は連結部２３の先端に鉤状に形成された抜け防止部、２６は軟質の合成樹脂製、ゴム製、紙製、金属箔等で幅広の薄い帯状に形成された帯状部、２７は帯状部２６の一端側を折り返して端部を溶着、接着等で帯状部２６に固着して形成され連結部２３が挿通された取付部である。

なお、本参考例においては、連結部２３は固定部２２に嵌合されている。そのため、連結部２３を摘んで動かせば回動させることができるが、帯状部２６を挟んで引き出しても連結部２３に力が伝達され難いため、連結部２３を回動させることができないように形成されている。

【００４３】
以上のように構成された本発明の参考例２における理美容技術練習具２１は、理美容技術の練習を行う練習生等が、図示しない頭部模型に理美容技術練習具２１の固定部２２を吸着、貼着等によって固定した後、連結部２３を水平方向に回動させて所定の角度に設定する。次いで、参考例１で説明したのと同様にして、理美容技術の練習を行うことができる。
【００４４】
以上のように構成された参考例２における理美容技術練習具によれば、参考例１に記載した作用に加え、以下のような作用が得られる。
（１）帯状部２６の一端に取付部２７が形成されており、消耗品である帯状部２６の構成が単純なので、ランニングコストを著しく低減させることができる。
【００４５】
（参考例３）
図４は本発明の参考例３における理美容技術練習具の斜視図である。
図中、３１は参考例３における理美容技術練習具、３２は軟質の合成樹脂製、ゴム製等で略円形の面状に形成された固着部、３３は軟質の合成樹脂製、ゴム製、紙製、金属箔等で幅広の薄い帯状に形成され一端が同じ付け根で固着部３２に接続された複数の帯状部である。
【００４６】
以上のように構成された本発明の参考例３における理美容技術練習具３１は、参考例１で説明したものと同様の図示しない頭部模型に、固着部３２を貼着等で着脱自在に固着することができる。
なお、参考例３における理美容技術練習具の使用方法は、参考例１で説明したものと同様なので、説明を省略する。
【００４７】
以上のように構成された参考例３における理美容技術練習具によれば、参考例１に記載した作用に加え、以下のような作用が得られる。
（１）複数の帯状部３３が固着部３２に接続されているので、重ねた帯状部３３に厚みができるので、毛髪の束の厚みに近い感触が得られる。
（２）構成が単純なので少ない材料コストで量産することができる。
【００４８】
（参考例４）
図５（ａ）は本発明の参考例４における理美容技術練習具の斜視図であり、（ｂ）は参考例４における理美容技術練習具の側面図である。
図中、４１は参考例４における理美容技術練習具、４２は軟質の合成樹脂製、ゴム製等で略円形の面状に形成された固着部、４３は硬質の合成樹脂製等で形成され固着部４２に対して略垂直に突設された硬質の板状部、４４は軟質の合成樹脂製、ゴム製、紙製、金属箔等で幅広の薄い帯状に形成され一端が板状部４３に固定された帯状部である。
【００４９】
以上のように構成された本発明の参考例４における理美容技術練習具４１は、参考例１で説明したものと同様の図示しない頭部模型に、固着部４２を貼着等で着脱自在に固着することができる。
また、参考例４における理美容技術練習具の使用方法は、参考例１で説明したものと同様であるが、帯状部４４を板状部４３に対して真っ直ぐ引き上げる場合、帯状部４４を板状部４３に対して斜めに引き上げる場合（図５（ｂ）参照）について、帯状部４４が捻れたり弛んだり水平方向に対する角度ずれが生じないように姿勢やスタンス等を整えることで、グラデーション、セイムレイヤー、ハイレイヤー等の各々の場合の正しいカットのための姿勢やスタンス等を習得することができる。
【００５０】
以上のように構成された参考例４における理美容技術練習具によれば、参考例１に記載

した作用に加え、以下のような作用が得られる。
（１）板状部４３が固着部４２に垂設されているので、引き出した帯状部４４の捻れや角度ずれの有無を、板状部４３を基準にして練習者自身が目視で容易に判断することができ、練習効率を高めることができる。

【００５１】

（参考例５）

図６（ａ）は本発明の参考例５における理美容技術練習具の斜視図であり、（ｂ）は参考例５における理美容技術練習具の正面図である。

図中、５１は参考例５における理美容技術練習具、５２は可撓性を有する軟質の合成樹脂製、ゴム製等で略半円状の面状体で形成された固着部、５３は固着部５２の一辺に立設された略半円状の標示板、５４は固着部５２と標示板５３の境界の両端から形成された切れ目部、５５は標示板５３の下端から等間隔の放射状に標示された第二角度目盛である。本参考例においては、第二角度目盛５５は１５°刻みで標示されており、４５°、９０°の数値も標示されている。５６は軟質の合成樹脂製、ゴム製、紙製、金属箔等で幅広の薄い帯状に形成され一端が第二角度目盛５５の放射中心位置で固着部５２に接続された帯状部である。

【００５２】

以上のように構成された本発明の参考例５における理美容技術練習具５１は、図示しない頭部模型に、固着部５２を貼着等で着脱自在に固着することができる。

また、参考例５における理美容技術練習具の使用方法は、参考例１で説明したものと同様であるが、帯状部５６を引き上げる場合、図６（ｂ）のように、固着部５２に対する帯状部５６の角度を第二角度目盛５５で確認することができ、各角度で引き上げた場合の姿勢やスタンス等を整えることで、グラデーション、セイムレイヤー、ハイレイヤー等の各々の場合の正しいカットのための姿勢やスタンス等を習得することができる。

【００５３】

以上のように構成された参考例５における理美容技術練習具によれば、参考例１に記載した作用に加え、以下のような作用が得られる。
（１）固着部５２に立設され帯状部５６の側方に添設された標示板５３と、標示板５３に標示された第二角度目盛５５と、を備えているので、毛髪を引き出す角度を変えたり一定の角度で引き出したりすることを想定した練習を行う際に、どの程度の角度で引き出しているのかを理解することができ、引き出す角度と姿勢やスタンスとの関係を習得することができる。
（２）固着部５２と標示板５３の境界の両端から形成された切れ目部５４を備えているので、標示板５３で拘束されることなく、湾曲した頭部模型の表面に沿わせて固着部５２を貼着させることができる。

【００５４】

ここで、本参考例においては、固着部５２に標示板５３が立設された場合について説明したが、参考例２で説明した理美容技術練習具２１に標示板５３を設ける場合には、連結部２３に標示板５３を９０°の位置で固着することができ、これにより標示板５３を帯状部２６の側方に添設することができる。また、参考例１で説明した理美容技術練習具１に標示板５３を設ける場合には、板状部７の縁に標示板を９０°の位置で固着することができ、これにより標示板５３を帯状部８の側方に添設することができる。

【００５５】

（参考例６）

図７（ａ）は本発明の参考例６における理美容技術練習具を頭部模型に装着した状態を示す斜視図であり、図７（ｂ）は理美容技術練習具の要部断面図である。

図中、６１は参考例６における理美容技術練習具、６２は可撓性を有する軟質の合成樹脂製、ゴム製、紙製等で帯状に形成され頭部模型１０９に貼着等で固定された固定部、６３は略Ｌ字状に形成され適当な間隔をあけて一端が固定部６２に回動可能に枢設された連結部、６４は固定部６２と略平行に配設された他端側の連結部６３に形成された複数の凸

部からなる抜け防止部、６５は軟質の合成樹脂製、ゴム製、紙製、金属箔等で幅広の薄い帯状に形成された帯状部、６６は帯状部６５の一端側に形成され連結部６３が挿通された筒状の取付部、６７は固定部６２の表面に連結部６３を中心に等間隔の放射状に標示された第一角度目盛である。

【００５６】

以上のように構成された参考例６における理美容技術練習具によれば、参考例１、参考例２に記載した作用に加え、以下のような作用が得られる。

（１）帯状に形成された固定部６２に帯状部６５が適当な間隔をあけて複数枚固定されているので、一つの理美容技術練習具６１を頭部模型１０９に装着することで帯状部６５を複数固着でき取扱性に優れる。

（２）固定部６２の種々の部位に帯状部６５が設けられているので、一度に種々の部位のカット等の練習をすることによって総合練習をすることができる。

【００５７】

（実施の形態２）

図８（ａ）は本発明の実施の形態２における理美容技術練習用模型の側面図であり、（ｂ）は本発明の実施の形態２における理美容技術練習具の要部側面図である。

図８（ａ）において、１１０は実施の形態２における頭部模型からなる理美容技術練習用模型、１１１は理美容技術練習用模型１１０の頭部模型の模型本体、１１２は模型本体１１１のフロント，トップ，サイド，ネープ等のセクションごとに適当な間隔をあけて垂設された複数の突条部からなる被固着部である。

図８（ｂ）において、７１は実施の形態２における理美容技術練習具、７２は理美容技術練習用模型１１０に立設された被固着部１１２を挟持して固着されるクリップからなる固着部、７３は固着部７２に凸起状に形成された連結部、７４は連結部７３に形成された凹部７３ａに嵌合し回動可能に形成された略球面状の嵌合部、７５は嵌合部７４に延設されたクリップからなり固着部７２に連結された止着部、７６は軟質の合成樹脂製、ゴム製、紙製、金属箔等で幅広の薄い帯状に形成され止着部７５で挟持され止着された帯状部である。

【００５８】

以上のように構成された本発明の実施の形態２における理美容技術練習具７１は、クリップからなる止着部７５に帯状部７６を挟持させて止着した後、理美容技術練習用模型１１０のカット等の練習をしたいセクションに形成された被固着部１１２を、理美容技術練習具７１の固着部７２で挟持することで固着させることができる。また、嵌合部７４を使って固着部７２に対して止着部７５を回動させることで、帯状部７６の水平方向の角度を変えることができる。

別のセクションの練習を行う場合には、被固着部１１２から理美容技術練習具７１の固着部７２を取り外して、別のセクションに形成された被固着部１１２に理美容技術練習具７１を配置する。カットの練習によって帯状部７６が短くなってしまったら、止着部７５のクリップに新しい帯状部７６を止着すればよい。

【００５９】

以上のように構成された実施の形態２における理美容技術練習具によれば、参考例１に記載した作用に加え、以下のような作用が得られる。

（１）帯状部７６が止着部７５に着脱自在に形成されているので、帯状部７６がカットの練習で短くなってしまったら、帯状部７６だけを新しいものと交換できるので、ランニングコストを低減させることができる。

（２）止着部７５が固着部７２に対して回動可能に形成されているので、帯状部７６の水平方向の角度を変えることができ、帯状部７６の角度に応じて自身の体の位置や姿勢を変化させることを習得でき、セクションごとに別々の切り方をする場合の基本動作を習得できる。

（３）帯状部７６の一端側が幅広の止着部７５で挟持され止着されているので、止着部７５を基準にして、引き出した帯状部７６の捻れや角度ずれの有無を目視で容易に判断する

ことができる。

【００６０】

また、以上のように構成された実施の形態２における理美容技術練習用模型によれば、以下のような作用が得られる。

（１）セクションごとに模型本体１１１に複数の被固着部１１２が形成されているので、理美容技術練習具７１を様々なセクションの被固着部１１２に装着して、セクションごとのカットやワインディングの場合の姿勢やスタンス等を練習できる。

【００６１】

ここで、本実施の形態においては、理美容技術練習用模型１１０の模型本体１１１が頭部模型と一体に形成された場合について説明したが、模型本体１１１を合成樹脂製やゴム製等で成形して、参考例１で説明した頭部模型１００に被着して用いるようにする場合もある。この場合は、既存の頭部模型１００を流用できるという作用が得られる。

【００６２】

図９（ａ）は本発明の参考例７における理美容技術練習用模型の側面図であり、（ｂ）は本発明の参考例７における理美容技術練習用模型に実施の形態１における他の変形例の理美容技術練習具を固着した状態を示す要部断面図である。なお、実施の形態１で説明したものと同様のものは、同じ符号を付して説明を省略する。

図９（ａ）において、１２０は参考例７における頭部模型からなる理美容技術練習用模型、１２１は薄肉の合成樹脂製や金属製等で生え際から後頭部，首部に亘って略椀状に形成された頭部模型の模型本体、１２２は模型本体１２１の首部に延設された基部、１２３は基部１２２に形成され後述する取付台１３０の支持ヘッド１３１が嵌挿される支持ヘッド嵌挿孔部、１２４は模型本体１２１に形成された孔部からなる被固着部、１３０は既存の練習用ウィッグ等を取り付けることもできる既存の取付台、１３１は取付台１３０に立設された支持ヘッドである。

図９（ｂ）において、１１´は実施の形態１における他の変形例の理美容技術練習具、１２ａは理美容技術練習用模型１２０の被固着部１２４に着脱自在に固着される理美容技術練習具１１´の固着部、１２ｂは一端が止着部１３に固着され他端側が被固着部１２４に挿通された軸部、１２ｃは軸部１２ｂに被固着部１２４の孔径よりも大きな外径で形成された鍔部、１２ｄは軸部１２ｂの外周面に螺設された螺子部、１２ｅは螺子部１２ｄに螺着される締結部材である。

【００６３】

以上のように構成された参考例７における理美容技術練習用模型１２０は、理美容技術練習具１１´の固着部１２ａの軸部１２ｂが被固着部１２４に挿通され、軸部１２ｂの螺子部１２ｄに締結部材１２ｅが螺着されるので、理美容技術練習具１１´を着脱自在に固着することができる。帯状部１４の水平方向における角度を変える場合は、締結部材１２ｅを緩めた後、軸部１２ｂを回動させて帯状部１４の角度を変え、締結部材１２ｅを締結し直すことで帯状部１４の角度を変えることができる。

【００６４】

以上のように、参考例７における理美容技術練習用模型１２０は構成されているので、以下のような作用が得られる。

（１）理美容技術練習用模型１２０の模型本体１２１は、生え際から後頭部に亘る略椀状の薄肉に形成されているので、理美容技術練習用模型１２０の背面側から手を入れて、理美容技術練習具１１´を締結部材１２ｅで固定することができ自在性に優れる。

（２）理美容技術練習用模型１２０の模型本体１２１は、生え際から後頭部に亘る略椀状の薄肉に形成されているので、成形性に優れるとともに軽量で容易に持ち運ぶことができる。

【００６５】

なお、本参考例においては、理美容技術練習用模型１２０に孔部からなる被固着部１２４が形成された場合について説明したが、孔部に代えて、実施の形態１で説明した凹部からなる被固着部や実施の形態２で説明した凸部からなる被固着部が形成されたものを用い

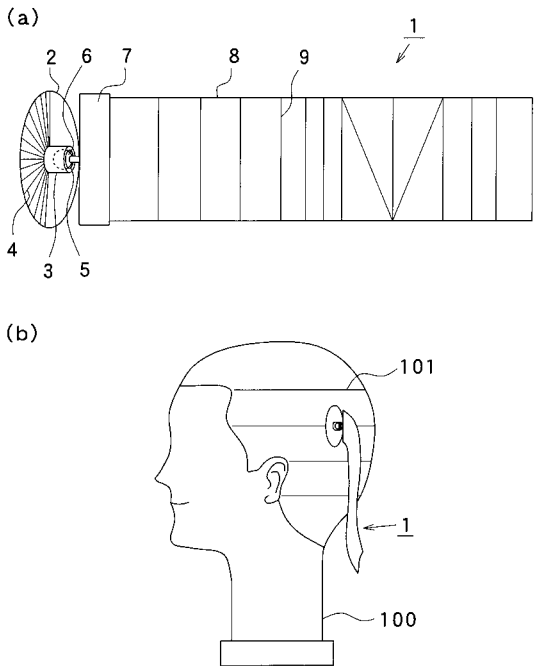
る場合もある。また、理美容技術練習用模型１２０の孔部からなる被固着部１２４に、理美容技術練習具１１´の軸部１２ｂを挿通し締結部材１２ｅで締結固定する場合について説明したが、締結部材１２ｅに代えて、理美容技術練習用模型１２０の背面側からクリップ等で軸部１２ｂを挟持して固定する場合もある。また、理美容技術練習具１１´の固着部１２ａに代えて、実施の形態１で説明した理美容技術練習具１１の略球面状に形成された固着部１２を挿着して固定する場合もある。また、理美容技術練習用模型１２０の孔部からなる被固着部１２４の内周面に螺子部を形成し、理美容技術練習具の固着部や固定部に該螺子部と螺合する螺子部を形成したものを用いる場合もある。以上のような場合にも、参考例７で説明した理美容技術練習用模型と同様の作用が得られる。

【産業上の利用可能性】

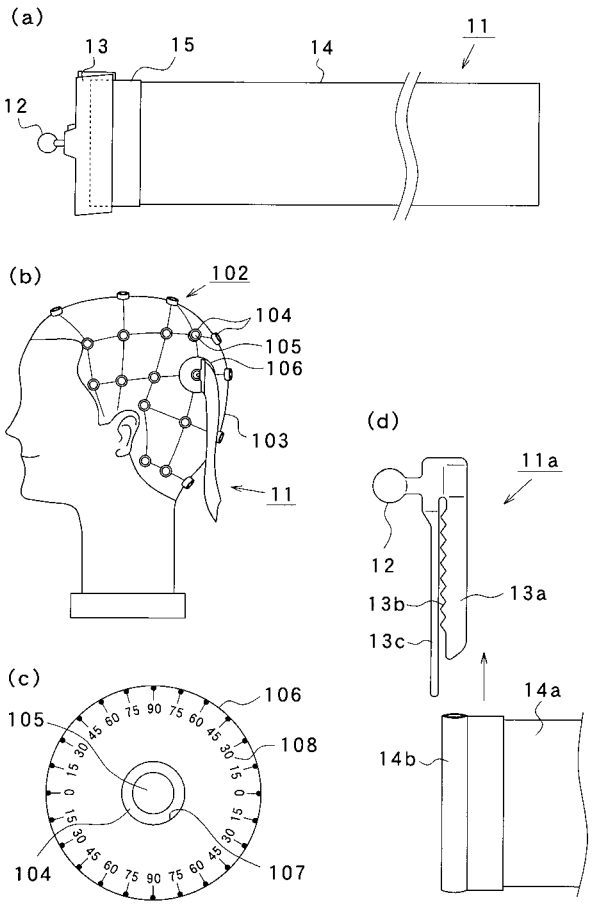
【００６６】

本発明は、髪のカットやワインディングの練習を行うときに用いる理美容技術練習具及び理美容技術練習用模型に関し、指の間に挟んで引き出すときの捻れや角度ずれの有無がわかり易いため、カットやワインディングのための正しい姿勢等を自分で判定することができ、さらに捻れや角度ずれがなくなるような正しい姿勢やスタンスを習得することができ、自分の癖や自分に欠けている技術は何かを客観的に判定することができるため、正しいカットやワインディングの基本技術を短時間で習得することができ、また指導者も基本技術を客観的に教えることができ効果的な指導が可能で、さらに切り終えてしまっても新しいものと交換すれば頭部模型は繰り返し使用することができ、ランニングコストを抑えることができる理美容技術練習具を提供することができ、また理美容技術練習具を取り付けて、カットやワインディングの基本技術を練習することができる理美容技術練習用模型及び理美容技術練習具を用いた理美容技術練習用模型を提供することができる。

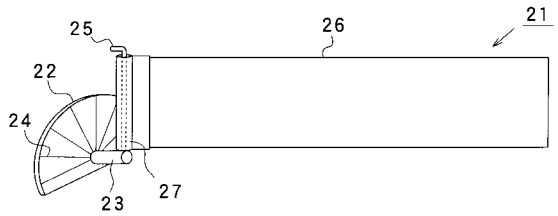
【図１】



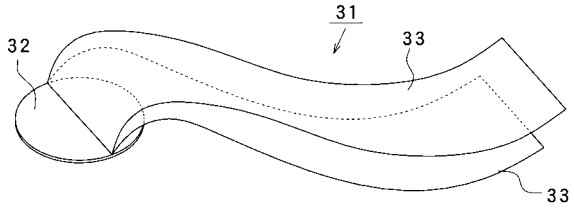
【図２】



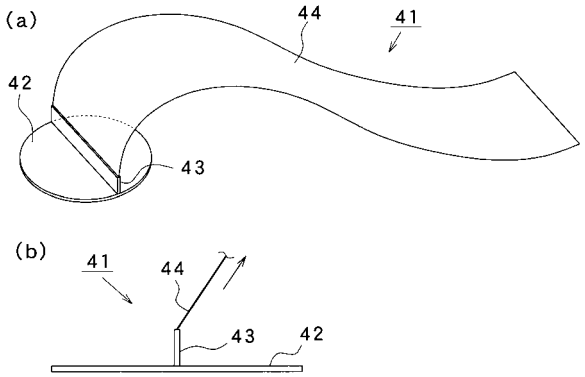
【図３】



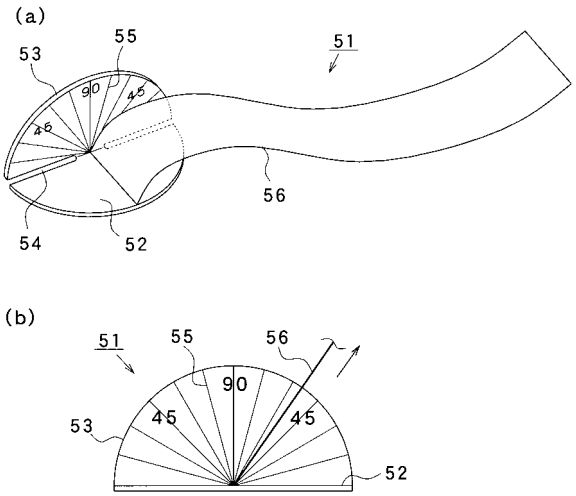
【図４】



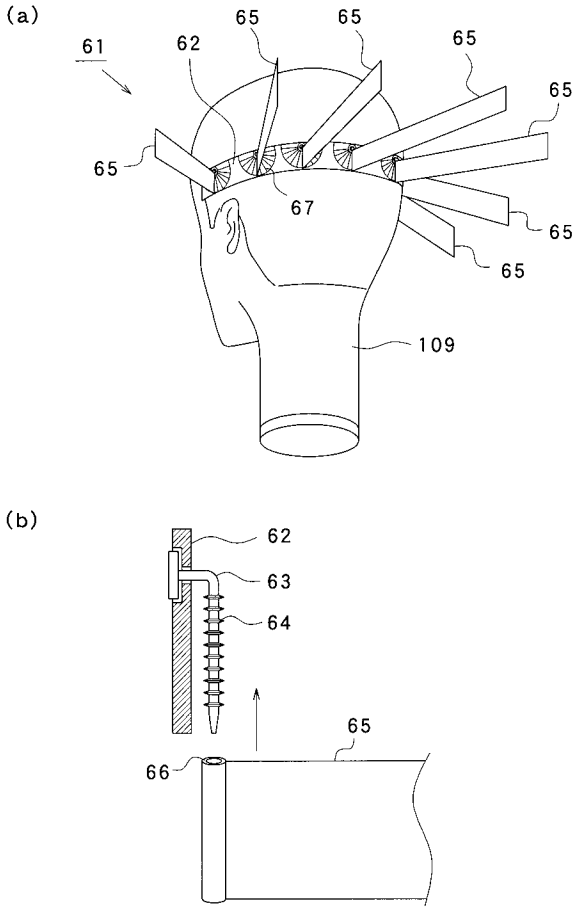
【図５】



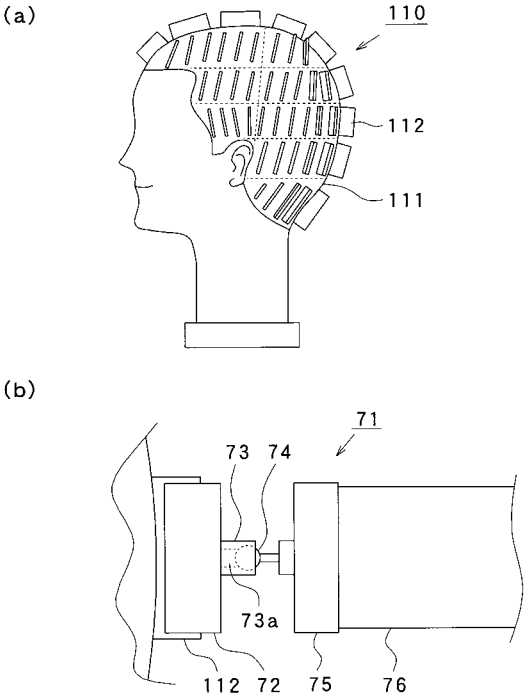
【図６】



【図７】

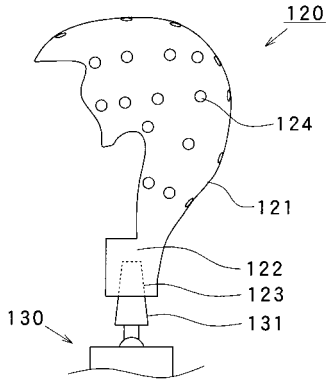


【図８】

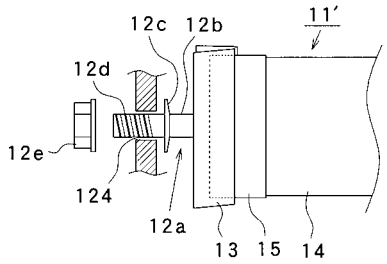


【図９】

(a)



(b)



フロントページの続き

(56)参考文献 特開昭５７－０４７９０７（ＪＰ，Ａ）
特開２０００－３４２３３３（ＪＰ，Ａ）
仏国特許出願公開第２７５２７００（ＦＲ，Ａ１）
仏国特許出願公開第２６３４０４２（ＦＲ，Ａ１）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ４５Ｄ ４４／１４
Ｇ０９Ｂ １９／２４